NO.HR222R01

HR42 ｼﾘｰｽﾞ　デジタルタコメータ

取扱説明書

御使用前にこの取り扱い説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
その後、大切に保管し必要なときお読み下さい。

御使用上の注意事項

本製品は精密機器ですので取り扱いには十分御注意ください。

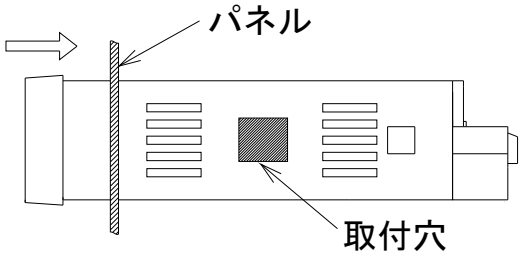
1. 設置場所は下記の場所を避けて下さい。
   - ・直射日光があたる場所や周囲温度が-10～50℃の範囲を越える場所
   - ・塵埃、塩分、鉄粉が多い場所
   - ・相対湿度が 25～85%の範囲を越える場所や温度変化が急激で結露するような場所
   - ・腐食性ｶﾞｽ(特に硝化ｶﾞｽ、ｱﾝﾓﾆｱｶﾞｽなど)や可燃性ｶﾞｽのある場所
   - ・振動、衝撃の激しい場所
   - ・水、油、薬品などの飛来がある場所
   - ・ﾗｼﾞｴｰｼｮﾝﾉｲｽﾞの影響が考えられる場所
2. 各種ｱﾅﾛｸﾞ出力機器との接続について
   ﾉｲｽﾞによる誤動作防止として次の対策をとって下さい。
   - ・入力ﾗｲﾝに 1 芯ｼｰﾙﾄﾞ線を御使用下さい。
   - ・入力ﾗｲﾝは高圧線や動力線との平行配線、同一電線管配線を避け、必ず単独配管とし、できるだけ短く配線して下さい。
3. 供給電源について
   電源電圧は使用可能範囲内で御使用下さい。使用可能範囲外で使用しますと火災・感電・故障の原因となります。
   電源に大きなﾉｲｽﾞがのっている場合には、誤動作の原因になりますのでﾉｲｽﾞｶｯﾄﾄﾗﾝｽなどを御利用下さい。
   また、頻繁な電源の ON/OFF は避けて下さい。

□保証範囲

（1）この製品の保障期間は納入後 1 年間と致します。保障期間内に弊社の責による故障が生じた場合には、その機器の故障部分の修理または交換を行います。
ただし、次に該当する場合にはこの保証の対象範囲から除外させていただきます。
①お客様の不当な取り扱い、または使用による場合
②故障原因が納入品以外の事由による場合
③弊社以外の改造、または修理による場合
④その他、天災・災害・戦争などで弊社の責にない場合
なお、ここでいう保証は納入品単体の保証を意味し納入品の故障により誘発される災害はご容赦いただきます。

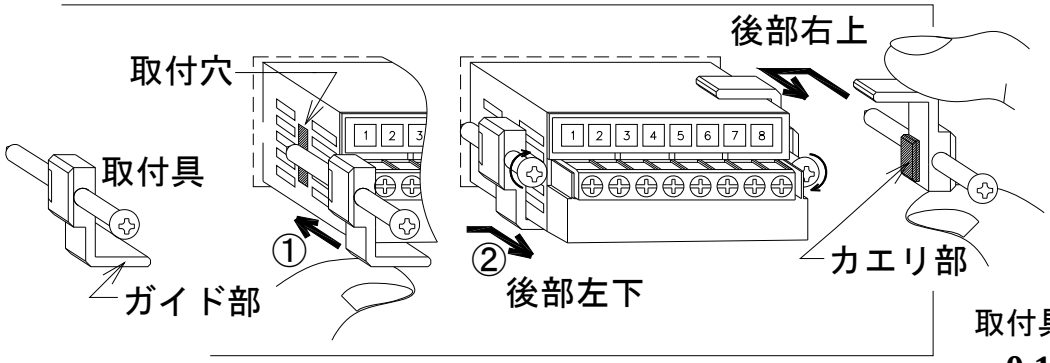
（2）この製品は、人命に関るような状況の下で使用される機器、あるいはシステムに用いられることを目的として設計・製造されたものではありません。

取付方法



本体をパネルに前面から
挿入します。

付属品
・取扱説明書（本書）（1 部）
・取付具（2 個 1 組）
・単位シール（2 種類各 1 枚）



取付具ねじ締付トルク
0.15N.m～0.3N.m

取付具を本体後部右上と左下の 2 箇所にそれぞれ取付けます。
①取付具のガイド部をケース左下コーナーまたは右上コーナーに沿わせながらケースの
取付穴にはめ込みます。

②後方へ引きながらネジを 2 箇所均等に締めつけ
て固定してください。

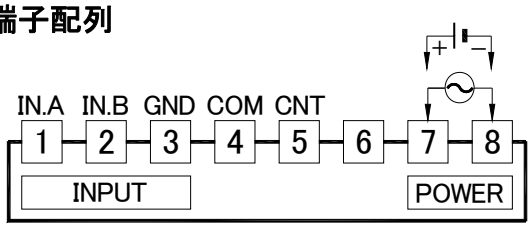
⚠注意
0.3N.m 以上で締めつけるとケースおよび取付具が変形しますので
ご注意ください。

定格仕様

電源電圧	HR42B□：AC100V　50/60Hz 共用　（許容電圧変動率 90～120%）
	HR42C□：AC200V　50/60Hz 共用　（許容電圧変動率 90～120%）
	HR42E□：DC20V～30V　ﾘｯﾌﾟﾙ率 5%以内
絶縁抵抗	入力-電源間 100MΩ 以上 (DC500V)
消費電力	約 4VA(AC ﾀｲﾌﾟ)　約 2W(DC ﾀｲﾌﾟ)
使用周囲温度	-10～50℃(ただし、氷結しないこと)
使用周囲湿度	25～85%RH(ただし、結露しないこと)
外形寸法	24H×48W×91Dmm DIN ｻｲｽﾞ
ﾊﾟﾈﾙｶｯﾄ	22.2H(公差+0.3 -0)×45W(公差+0.6 -0) mm
質量	約 70g

端子配列

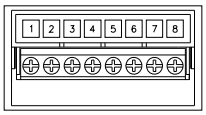
●端子配列



NO	名称		内容
1	IN.A		入力信号
2	IN.B		
3	GND		入力 GND
4	COM		端子⑤のｺﾓﾝ端子　（端子③-④内部接続）
5	CNT		CNT（ｺﾝﾄﾛｰﾙ）端子 端子④と短絡間、ｾﾞﾛ表示（ﾘｾｯﾄ）します。
6	N.C		（注）中継端子として使用しないでください。
7	+	POWER	電源電圧
8	−		

□端子部仕様

ﾋﾟｯﾁ	5mm
接続電線ｻｲｽﾞ	26～14AWG
電線剥離長さ	6～7mm
ﾈｼﾞ	M2.5
締付ﾄﾙｸ	0.5Nm



⚠注意

1. 入力信号のｼｰﾙﾄﾞ線は、必ず、端子③(GND)へ配線して下さい。ｱｰｽﾗｲﾝとは接続しないで下さい。
2. 入力に仕様外の信号入力を加えると破損します。して下さい。ｱｰｽﾗｲﾝとは接続しないで下さい。
3. 電源の投入/遮断は一気に行って下さい。

●入力信号の配線

型番	入力信号	端子①（IN.A）	端子②（IN.B）	端子③（GND）
HR42□1	電圧出力パルス	○（OUT）		○（0V）
	NPN オープンコレクタ		○（OUT）	○（0V）
	有接点		○	○
HR42□2	AC タコジェネ	○		○
HR42□3	マグネチックセンサ	○		○

（注）方形波パルス入力端子は IN.A、IN.B の 2 箇所あります。
センサー仕様に合せて配線して下さい。
なお、IN.A、IN.B 同時に配線しないで下さい。

●入力仕様

ﾀｲﾌﾟ	入力信号	応答速度	入力ﾚﾍﾞﾙ	入力ｲﾝﾋﾟｰﾀﾞﾝｽ
1	方形波ﾊﾟﾙｽ	0.001Hz ～ 100kHz	HI:4-30V LO:0-1.5V ※1	約 10kΩ （端子①） 約 1.5kΩ　※2 （端子②）
2	AC ﾀｺｼﾞｪﾈ	10Hz～ 3kHz	0.8V～80VAC	410KΩ
3	ﾏｸﾞﾈﾁｯｸｾﾝｻ ※3	0.3Hz～ 30kHz	$0.3V^{P-P}$～$12V^{P-P}$	210kΩ

確度:±0.003%rdg±1digit ただし、23℃±5℃とする。
・応答速度は duty50%とする。
※1 応答速度 50kHz 以上については TTL ﾚﾍﾞﾙとする。
※2 端子②の入力で NPN ｵｰﾌﾟﾝｺﾚｸﾀ入力、2 線式ｾﾝｻｰご使用の場合は以下の内容のものをご使用ください。
（ﾒｰﾀ内部は 12V 1.5kΩ で接続されています。）
ON 時:残留電圧 3V 以下 負荷容量 7mA 以上
OFF 時:漏れ電流 2mA 以下
※3 OFF SET 電圧は 0V～7V の範囲内とする。

●外部制御端子（端子⑤；CNT 端子）

・負論理入力（無電圧入力）最小 ON 巾：約 40msec　・ｵｰﾌﾟﾝｺﾚｸﾀ(NPN)入力する場合（以下のものをご使用ください。）
・ON 時、約 7.4mA 流れます。内部抵抗 1.5kΩ　ON 時：残留電圧 3V 以下　OFF 時：漏れ電流 1.4mA 以下

ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ一覧表

表示に関する数値をﾊﾟﾗﾒｰﾀに設定します。前面ｷｰでﾊﾟﾗﾒｰﾀを設定し内部に記憶します。

ﾊﾟﾗﾒｰﾀ名称		内容説明	設定範囲
--1-	入力ｽﾋﾟｰﾄﾞﾌｨﾙﾀ	使用するｾﾝｻｰなどの最大出力周波数やﾉｲｽﾞの影響に応じて入力ｽﾋﾟｰﾄﾞ（感度）を調整。 詳細は「●入力スピード（パラメータ 1）　の設定に付いて」参照。	1/2/3/4
--2-	掛算係数(m)	表示値の換算(ｽｹｰﾘﾝｸﾞ)を行います。	0.0001～99999
--3-	掛算係数(k)	内部演算式：表示値＝入力周波数×$\frac{(m)\times(k)}{(n)}$　　※入力周波数の単位は(Hz)。	1～99999
--4-	割算係数(n)		0.0001～99999
--5-	小数点位置	表示値の小数点位置を設定。 なお、単に小数点を点灯する位置を指定するものとする。	0/0.0/0.00 /0.000/0.0000
--6-	表示周期	表示値の表示切替時間を設定。単位（秒）。設定した時間の平均値表示となります。	0.1/0.2/0.5/1/2/3/4/5
--7-	移動平均	表示周期ごとの移動平均回数を設定。単位（回）応答速度は遅くなりますが、安定した表示が得られます。なお、1 回の場合は移動平均なし。	1～10
--8-	ｾﾞﾛﾘｾｯﾄ時間	表示値をｾﾞﾛﾘｾｯﾄする時間を設定。(演算待機時間)	1～1000
--9-	ｾｯﾄｾﾞﾛ	設定した数値以下をｾﾞﾛ表示します。なお、小数点を無視した数値で設定。	oFF/1～99999
-10-	ﾎｰﾙﾄﾞ機能	(本仕様に関係なし)「oFF」設定して下さい。	oFF/1/2/3/4/ 11/12/13/14/ 21/22/23/24
-11-	予測演算	減速状態で次の入力を予測して徐々に表示値を下げます。表示値は次のﾊﾟﾙｽをｾﾞﾛﾘｾｯﾄ時間で設定した間、保持せず予測演算しながらｾﾞﾛに近づきます。(1Hz 以下で動作)	oFF/on
-12-	ゼロ固定	「5」:5 の倍数表示。　　「10」:10 の倍数表示。(最下位桁ｾﾞﾛ固定表示) 「100」:100 の倍数表示。(最下位 1,2 桁ｾﾞﾛ固定表示)	oFF/5/10/100
-Pr-	ｷｰﾌﾟﾛﾃｸﾄ	ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定およびｵｰﾄｽｹｰﾘﾝｸﾞを禁止します。	OFF/on

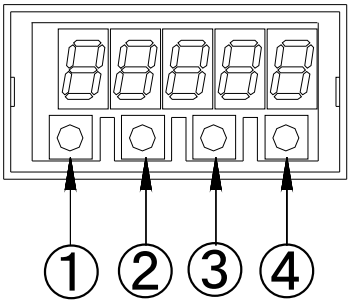
●入力スピード（パラメータ 1）　の設定に付いて

ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1 の設定により最大入力スピードの変更が可能です。以下の表は設定値と最大入力周波数の関係です。
通常、出荷時の設定（①参照）で計測を行い、計測する最大周波数やノイズなどの影響などで表示値にちらつきがある場合は設定値をこの大小関係（②参照）で変更して下さい。
なお、以下の最大周波数は安定した信号レベルで計測可能な最大周波数です。（最大周波数に巾がありますので目安にして下さい。）

型　式	HR42□1 （方形波ﾊﾟﾙｽ）	HR42□2 （AC ﾀｺｼﾞｪﾈ）	HR42□3 （ﾏｸﾞﾈﾁｯｸｾﾝｻｰ）
ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1＝[1]または[2]	max　30Hz　※	max　30Hz	max　30Hz
ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1＝[3]	max 10kHz	max　3kHz	max 10kHz
ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1＝[4]	max100kHz	max　3kHz	max 30kHz
①出荷時の設定	[3]	[3]	[3]
②大小関係	[4]>[3]>[2]=[1]	[4]=[3]>[2]=[1]	[4]>[3]>[2]=[1]

※接点入力の場合は[1]または[2]を設定してください。

前面ｷｰ説明　（前面パネル開時）



NO	記号	内容
①	ﾓｰﾄﾞ(MODE)ｷｰ	ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定を行います。 3 秒間押すとﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定状態になります。
②	↑ (UP) ｷｰ	ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定状態で、数値ｱｯﾌﾟさせる場合に用いる。 押し続けるとｱｯﾌﾟ速度が増します。
③	↓(DOWN)ｷｰ	ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定状態で、数値ﾀﾞｳﾝさせる場合に用いる。 押し続けるとﾀﾞｳﾝ速度が増します。
④	ｾｯﾄ(SET)ｷｰ	ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定値の変更を内部ﾒﾓﾘに記憶させます。

※前面パネルは左右の切溝にマイナスドライバなどを差し込み前方に開けてください。

オートスケーリング　(ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定数値がわからない場合および微調整)

ｽｹｰﾘﾝｸﾞに必要な数値はﾊﾟﾗﾒｰﾀ 2～4 で設定します。
ｵｰﾄｽｹｰﾘﾝｸﾞは希望の数値になるようにﾊﾟﾗﾒｰﾀ 2～4 を自動で設定するものです。
例えば､ﾊﾝﾄﾞﾀｺﾒｰﾀなどで測定した速度や回転数をﾒｰﾀｰに打ち込むだけで､希望の数値にｽｹｰﾘﾝｸﾞします。
まず､信号を入力して 0 以外の数値が表示されたらｵｰﾄｽｹｰﾘﾝｸﾞを実行してください。

・使用条件
1. ｾﾞﾛ表示以外で操作(実際に信号を入力してください。)
2. 100kHz>実行時の入力周波数≧1Hz
3. ﾊﾟﾗﾒｰﾀ Pr=oFF

手順	ｷｰ操作	表示および内容
①		1440 計測を行い、1440表示を3600表示に変更する場合
②	↑ 3秒間押す	(最下位桁点滅) 1440 (最下位桁点滅)
③	↑および↓ 任意に変更	1440 3600に変更
④	SET 1回押す	3600 ｵｰﾄｽｹｰﾘﾝｸﾞ完了。計測表示に戻る。

実行後､ﾊﾟﾗﾒｰﾀに以下の値が自動設定されます。

ﾊﾟﾗﾒｰﾀ NO	名称	設定値
--2-	掛算計数:「1」を自動設定	1
--3-	掛算計数:変更した表示値	3600
--4-	割算計数:実行時の入力周波数(Hz)	1440

※1. ｽｹｰﾘﾝｸﾞのみ本操作で行えますが､小数点位置などﾊﾟﾗﾒｰﾀ 2～4 以外の項目についてはﾏﾆｭｱﾙで設定して下さい。
※2. ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 4 に小数点を含む数値が設定されていた場合は設定されていた小数点位置に従い周波数が設定されます。
ただし､最大 5 桁の範囲内で最下位桁は四捨五入して設定します。

設定例

○ｾﾝｻｰを使用して回転数および周速度を表示する場合

1 回転 200 ﾊﾟﾙｽのｴﾝｺｰﾀﾞで回転数(rpm)
または速度(m/min)を表示する場合。
ただし､ｴﾝｺｰﾀﾞ取付部のﾛｰﾗ-周長 0.24m､回転数
または速度を計測する場所は変速比 3/4 とする。

NO	設定内容	設定値(rpm)	設定値(m/min)
--2-	(1 回転当りの周長 m)×(変速比)	3/4=0.75	3/4×0.24=0.18
--3-	60	60	60
--4-	1 回転当りのﾊﾟﾙｽ数	200	200

○ｲﾝﾊﾞｰﾀやﾓｰﾀなどの周波数(Hz)入力の場合

1440Hz 出力時､ﾊﾝﾄﾞﾀｺﾒｰﾀで回転数を計測したところ､現在 1350rpm であった。
なお､現在の周波数がわからない場合は､ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 2～4=1 として計測し､表示値が周波数(Hz)となります。なお、この場合、ｵｰﾄｽｹｰﾘﾝｸﾞを使えば簡単にｽｹｰﾘﾝｸﾞできます。

NO	設定内容	設定値
--2-	1	1
--3-	希望値	1350
--4-	入力周波数(Hz)	1440

各種設定の操作方法　(前面パネルを開け設定してください。)

●ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定方法

手順①→②→の順にﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1～Pr まで設定します。

手順	ｷｰ操作	表示および内容
①	MODE 3秒間押す	(NO点滅) -1- ﾊﾟﾗﾒｰﾀ1のNO表示(ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定開始)
②	SET 1回押す	(最下位桁点滅) 1 ﾊﾟﾗﾒｰﾀ1の設定値表示
③	SET 1回押す	(NO点滅) -2- ﾊﾟﾗﾒｰﾀ1設定完了。ﾊﾟﾗﾒｰﾀ2のNO表示。
④	SET 1回押す	(最下位桁点滅) 1 ﾊﾟﾗﾒｰﾀ2の設定値表示
⑤	↑および↓ 任意に変更	1234 <例>12.34に変更 まず数値設定
⑥	SET 1回押す	1234. (小数点点滅)
⑦	↑および↓ 任意に変更	12.34 次に小数点移動
⑧	SET 1回押す	(NO点滅) -3- ﾊﾟﾗﾒｰﾀ2設定完了。ﾊﾟﾗﾒｰﾀ3のNO表示。
*	手順③～⑧を繰り返し､順次､最終ﾊﾟﾗﾒｰﾀPrまで設定し、設定終了。	

<注 1>左記操作方法の⑥⑦はﾊﾟﾗﾒｰﾀ 2､4 のみで可能。
数値設定した後､小数点位置を設定します。

○ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定について

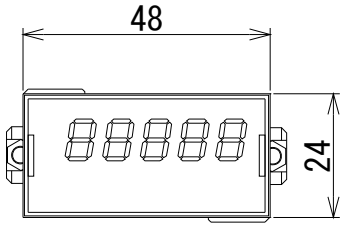
1. ﾊﾟﾗﾒｰﾀ NO 表示状態(- - 1 - など)で↑および↓で任意のﾊﾟﾗﾒｰﾀへ移動できます。どのﾊﾟﾗﾒｰﾀでも先送､逆戻ができます。
2. MODE を押すと､どのﾀｲﾐﾝｸﾞでも計測状態に戻ります。
このとき､SET を押したところまで入力完了となります。
3. 60 秒間設定変更がないと計測状態に戻ります。
このときも､SET を押したところまで入力完了となります。
4. ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定中であっても計測は行われています。
SET を押して設定完了後､新しい設定で動作します。
5. ｷｰﾌﾟﾛﾃｸﾄ(ﾊﾟﾗﾒｰﾀ Pr)ON の場合､ﾊﾟﾗﾒｰﾀの設定値を表示しても設定変更は出来ません。設定変更する場合は､まず､ｷｰﾌﾟﾛﾃｸﾄを OFF にした後に設定変更を行ってください。

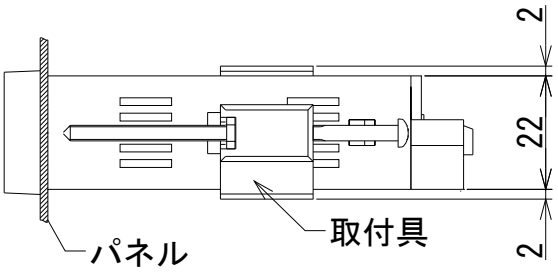
ｴﾗｰ表示

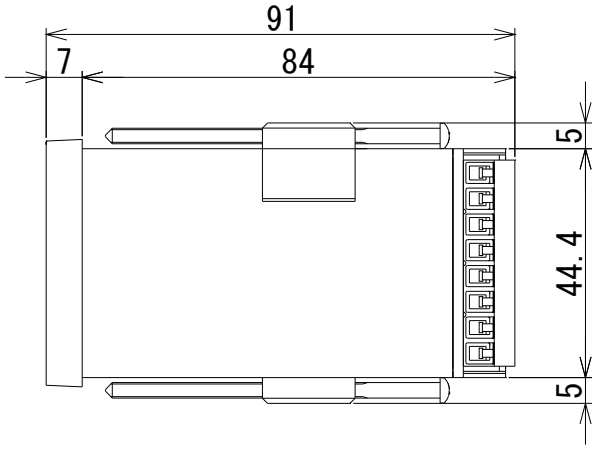
動作中や設定などに異常があれば以下のエラー表示します。

表示	原因	解除方法
（表示値の点滅）	表示範囲以上の表示になる計測結果となった場合。	ﾊﾟﾗﾒｰﾀを設定しなおす。
（異常な表示）	計測が不可状態になっている場合。	自動復帰して初期ｲﾆｼｬﾗｲｽﾞ処理後、計測を行います。 なお、復帰しない場合は電源を再投入して下さい。
Eror	内部記憶異常で設定ﾃﾞｰﾀに異常があった場合。	電源を再投入しｴﾗｰ表示を解除し計測を行う。 なお、ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定値が初期値に書き換えられている可能性がありますのでﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定値の確認を行って下さい。

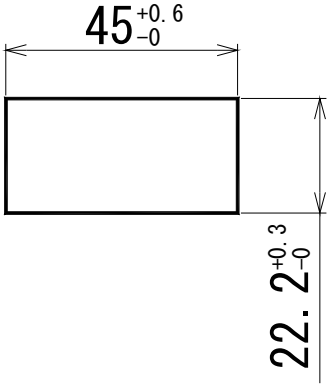
外形寸法図







□パネルカット



型式構成および入力仕様

HR42 ① E ② 1 - ③ L

① 電源電圧	
B	AC100V
C	AC200V
E	DC24V

② 入力信号	
1	方形波ﾊﾟﾙｽ
2	ACﾀｺｼﾞｪﾈ
3	ﾏｸﾞﾈﾁｯｸｾﾝｻ
90	その他

③ オプション	
(無)	無
L	20点折線補正(ﾘﾆｱﾗｲｽﾞ)

商品に関するお問い合わせは
右記へご連絡ください

Henixヘニックス株式会社
口本　社
〒572-0038 大阪府寝屋川市池田新町 1-25
TEL　072-827-9510　FAX　072-827-9445

NO.MR22FR03L

取扱説明書

デジタルタコメータ
20点折線補正(ﾘﾆｱﾗｲｽﾞ)

□対象シリーズ

MR41-L/MR43-L/MR45-L
HR42-L/HR44-L/HR46-L
BR11-L

御使用前にこの取り扱い説明書をよくお読みの上､正しくお使いください。
その後､大切に保管し必要なときお読み下さい。

端子配列および標準機能（ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定など）の詳細につきましては別途、各ｼﾘｰｽﾞ取扱説明書をご参照ください。

商品に関するお問い合わせは下記へご連絡ください

Henixヘニックス株式会社

□本　社
〒572-0038 大阪府寝屋川市池田新町 1-25
TEL　072-827-9510　FAX　072-827-9445

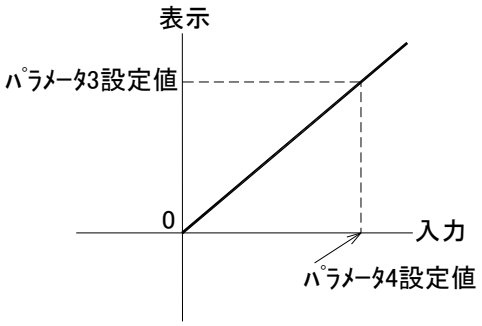
リニアライズ概要およびリニアライズパラメーター一覧表

通常のパラメータ（「--1-」～「-Pr-」）とは別にリニアライズパラメータに最大 20 点の表示値補正データを設定します。
リニアライズ有効時、パラメータの動作が変わるもの、または動作しなくなる項目は以下の通りです。

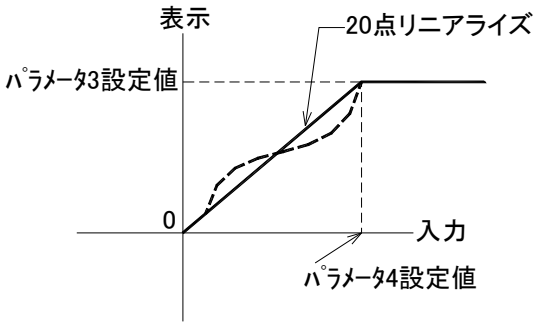
●動作が変わる「通常のパラメータ（重要)」

ﾊﾟﾗﾒｰﾀ名称		変更内容説明
--2-	掛算係数(m)	「1」以外が設定されていても「１」設定として動作します。
--3-	掛算係数(k)	パラメータ 4 の周波数入力時の表示値を設定します。 ・パラメータ 4 の最大入力周波数以上の入力信号があっても、ここで設定した数値で一定になります。
--4-	割算係数(n)	最大入力周波数を設定します。単位は Hz です。 ・パラメータ 3、4 で設定する表示値と周波数がリニアライズ補正最終の 21 点目になります。 ・リニアライズ入力信号は、ここで設定した数値以上設定できないので大きい数値を設定してください。 また、リニアライズ入力信号以下の設定変更はできません。
--9-	セットゼロ	「OFF」以外が設定されていても「OFF」設定として動作します。
-11-	予測演算	「OFF」以外が設定されていても「OFF」設定として動作します。
-12-	ゼロ固定	「OFF」以外が設定されていても「OFF」設定として動作します。

通常の状態



リニアライズ実行後の状態



●リニアライズパラメータ

リニアライズに関する数値を設定します。前面ｷｰでﾊﾟﾗﾒｰﾀを設定し内部に記憶します。
設定は 20 点の入力信号と表示値をそれぞれ設定します。ただし、20 点全て設定する必要は無く必要な点数を設定してください。

ﾊﾟﾗﾒｰﾀ名称		内容説明	設定範囲	初期値
-Lr-	実行の有無	ﾘﾆｱﾗｲｽﾞの有無を設定します。 oFF:ﾘﾆｱﾗｲｽﾞ無 SET を押した後、動作は通常動作内容になります。 なお、ﾘﾆｱﾗｲｽﾞﾃﾞｰﾀが設定されていても、通常動作内容になりますが設定済みのﾘﾆｱﾗｲｽﾞ設定値は内部に記憶しています。 on :ﾘﾆｱﾗｲｽﾞ有 SET を押した後、以下の［ 1］以降が表示されます。 CLr:SET を押した後、ﾘﾆｱﾗｲｽﾞ設定値は全てｸﾘｱ(ﾘｾｯﾄ)されます。	oFF/on/CL r	oFF
[1]	1 点目の入力信号	1 点目の入力信号を設定します。	------～0.0001～99999	------
	1 点目の表示値	1 点目の表示値を設定します。	.....0.～9.9.9.9.9.	.1.0.0.0.
[2]	2 点目の入力信号	2 点目の入力信号を設定します。	------～0.0001～99999	------
	2 点目の表示値	2 点目の表示値を設定します。	.....0.～9.9.9.9.9.	.1.0.0.0.
・	・	・	・	・
[20]	20 点目の入力信号	20 点目の入力信号を設定します。	------～0.0001～99999	------
	20 点目の表示値	20 点目の表示値を設定します。	.....0.～9.9.9.9.9.	.1.0.0.0.

（注 1）入力信号で「-----」を設定した場合、設定無となります。
（注 2）入力信号の単位は「Hz」。設定は小数点設定可能で 5 桁の範囲内で数値設定可能。
（MR43/HR44/HR46/BR11 の場合は、4 桁設定）
（注 3）表示値は入力信号と区別するため小数点全点灯します。
（注 4）リニアライズ ON の場合、オートスケーリングは実行不可能となります。

リニアライズパラメータ設定方法

手順①→②→の順に設定します。

手順	ｷｰ操作	表示および内容
①	**MODE** 3秒間押す	（NO点滅） ﾊﾟﾗﾒｰﾀ1のNO表示(ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定開始)
②	**↓** 3秒間押す	ﾘﾆｱﾗｲｽﾞﾓｰﾄﾞになります。
③	**SET** 1回押す	ﾘﾆｱﾗｲｽﾞの現在の設定状態を表示。
④	**↑および↓** 任意に変更	<例>onに変更 oFF/on/CLrから設定値を選択する。
⑤	**SET** 1回押す	（NO点滅） 1点目のNO表示。
⑥	**SET** 1回押す	1点目の入力信号表示。
⑦	**↑および↓** 任意に変更	<例>123.45に変更 まず数値設定。
⑧	**SET** 1回押す	（小数点点滅）
⑨	↑および↓ 任意に変更	次に小数点移動
⑩	**SET** 1回押す	（最下位桁点滅） 1点目の表示値設定。
⑪	**↑および↓** 任意に変更	<例>400に変更
⑫	**SET** 1回押す	（NO点滅） 1点目設定完了。2点目のNO表示。
＊	手順⑥～⑫を繰り返し、順次、最終20点目まで設定し、設定終了。	

※1 「on」を設定した場合のみ、20 点入力状態になります。

※2 「-----」設定で SET を押すと計測表示に戻ります。

※3 設定値は、 ----- →1→2‥と移動します。

※4 入力信号と区別するため表示値には小数点が全桁点灯します。
また、表示値の初期設定値は 1000 です。（20 点共通）

（注 1）20 点全ての入力信号および表示値には大小関係がありません。。

（注 2）20 点の入力信号の設定値は、0Hz＜入力信号＜通常設定のﾊﾟﾗﾒｰﾀ 4　の範囲内のみ可能。
この範囲内を外れた設定を受け付けません。

（注 3）20 点の表示値は同じ数値の設定可能。ただし、入力信号は同じ値を受け付けません。

○ﾘﾆｱﾗｲｽﾞﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定について

1. NO 表示状態([1]など)で↑および↓で任意の NO へ移動できます。どのﾊ NO でも先送、逆戻ができます。
ただし、最初に「-----」が設定されている最終 NO までしか進めません。
2. **MODE** を押すと、どのﾀｲﾐﾝｸﾞでも計測状態に戻ります。このとき、**SET** を押したところまで入力完了となります。
3. 60 秒間設定変更がないと計測状態に戻ります。このときも、**SET** を押したところまで入力完了となります。
4. ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定中であっても計測は行われているので計測中に設定変更しても、ｱﾅﾛｸﾞ出力など各特殊機能は動作します。
5. ｷｰﾌﾟﾛﾃｸﾄ(ﾊﾟﾗﾒｰﾀ Pr)ON の場合、ﾊﾟﾗﾒｰﾀの設定値を表示しても設定変更は出来ません。
設定変更する場合は、まず、ｷｰﾌﾟﾛﾃｸﾄを OFF にした後に設定変更を行ってください。

－便利な機能－
オートリニアライズ　（計測表示値を見ながらリニアライズする場合および微調整）

実際にリニアライズを実行して、表示値を見ながら補正及び追加が可能です。

（注 1）ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 4 の設定値より小さい周波数入力で実行可能。
（注 2）ﾘﾆｱﾗｲｽﾞの有無が「on」設定の場合のみ実行可能。
（注 3）全く同じ入力信号での補正は出来ません。この場合はﾘﾆｱﾗｲｽﾞﾊﾟﾗﾒｰﾀの設定で変更して下さい。
（注 4）ﾊﾟﾗﾒｰﾀ Pr＝OFF の場合に実行可能。

●オートリニアライズ補正操作方法　（MODE＋↑キーを同時に３秒間押す）

手順	ｷｰ操作	表示および内容
①		1590 250.4Hz入力時、1590表示を1600表示に変更する場
②	**MODE＋↑** 3秒同時押し	（最下位桁点滅） 1590
③	**↑および↓** 任意に変更	（最下位桁点滅） 1600 1600に変更
④	**SET** 1回押す	（NO点滅） [1] 1点目のNO表示。
⑤	**↑および↓** 任意に変更	（NO点滅） [4] ｵｰﾄﾘﾆｱﾗｲｽﾞを設定するNOを選択
⑥	**SET** 1回押す	1600 ｵｰﾄﾘﾆｱﾗｲｽﾞ完了。計測表示に戻る。

※1　MODE と↑を同時に 3 秒間押して下さい。

※2　任意に NO を選択できます。
ただし、入力信号が「-----」に設定されている最初の NO までとする。
・追加をする場合は最終の NO（「-----」に設定されている最初の NO）に設定してください。
・設定済の NO を修正する場合などは既に設定されている NO を選択してください。なお、その NO に上書きされます。

実行後､ﾊﾟﾗﾒｰﾀに下記の値が自動設定されます。（4 点目を選択した場合）

名称		設定値
[4]	4 点目の入力信号	250
	4 点目の表示値	1600

自動設定される入力信号の小数点位置は予め設定されていた入力信号の小数点位置に従います。
なお、設定は最大 5 桁の範囲内で設定されます。
なお、20 点とも入力信号の小数点位置初期設定は 0（なし）です。

上記ｵｰﾄﾘﾆｱﾗｲｽﾞで、4 点目の入力信号に 100.0 が設定されていた場合に、ｵｰﾄﾘﾆｱﾗｲｽﾞ後に下記の値が自動設定されます。

名称		設定値
[4]	4 点目の入力信号	250.4
	4 点目の表示値	1600

□備考
入力信号に自動設定される数値はｵｰﾄﾘﾆｱﾗｲｽﾞ実行時点の入力で、入力変動がある場合に行うと希望の数値に合せにくいことがあります。　自動設定された数値は内部演算に使用する数値のため実際の入力信号と若干異なる場合があります。

リニアライズパラメータで 10 点程度設定し､オートリニアライズで 10 点表示値をみながら調整することをお勧めします。